

# 紀北町地域公共交通網形成計画

(令和4年3月改定版)

# 目 次

1. 持続可能な地域公共交通網の形成に資する地域公共交通の活性化及び再生の 推進に関する基本的な方針.....	1
2. 計 画 区 域.....	2
3. 計 画 期 間.....	2
4. 公共交通の現状.....	3
4-1 鉄 道(JR 紀勢線).....	3
4-2 路線バス(河合線・いこかバス・島勝線・尾鷲長島線・松阪熊野線等).....	4
4-3 おでかけ応援サービス「えがお」.....	7
5. 公共交通の課題整理と目標.....	8
5-1 上位計画における位置づけ.....	8
5-2 町民の主な意見.....	10
5-3 主な移動ニーズ.....	11
5-4 課題の整理.....	11
5-5 計画の目標.....	13
6. 目標を達成するために行う事業・実施主体.....	21
6-1 「地域の特性・利用者ニーズに即した、効率的な運行体系の構築に向けて」 .....	21
6-2 「地域の活性化に資する交通サービスの提供と利用促進」.....	23
6-3 「地域の主体的な取組みを支援し一丸となる仕組みづくり」.....	24
6-4 実施主体及びスケジュール.....	25
7. 達成状況の評価に関する事項.....	26
付録 ヒアリング調査及びアンケート調査の意見等.....	29

## 1. 持続可能な地域公共交通網の形成に資する地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本的な方針

本計画は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく地域公共交通計画であり、紀北町が平成 27 年 7 月に策定した「紀北町地域公共交通網形成計画」を令和 4 年 3 月に一部改定した暫定計画である。なお、令和 4 年度末には計画の大きな改定を予定している。

### 【公共交通の役割】

公共交通は、単に移動を便利にするだけでなく、福祉・教育・商工・環境・観光といった様々な分野を支えるインフラである。その充実によって、町民の通院・買い物・通学などの基本的な移動を確保することで生活水準を担保し、さらにまちのにぎわいを生み、その活性化に寄与するものである。

### 【これまでの状況と取り組み】

人口減少や、少子高齢化の急速な進展、自動車に頼った生活へのシフトなどの要因によって、公共交通利用者が減少し、地域公共交通の維持が困難になってきている。

本町についても、車を所有する世帯が多く、公共交通の利用者は少ない。反面、高齢者など移動手段を持たない人は、日常生活に制限が強いられている。

また、事業者が運行する路線バスやタクシーの利用者は減少を続けており、廃止や便数減少といったサービス低下を招き、このことが一層の利用者数を減少させることに繋がるという悪循環となっている。

そこで町は、地域の方々から意見を十分お聞きし、ニーズに合ったバスの運行に努めることとしており、さらに平成 22 年 7 月には、道路運送法に基づく「紀北町地域公共交通会議(以下、交通会議)」を設置し、公共交通の関係者を委員として、改善策の協議を行うこととした。交通会議の議論に基づき、平成 23 年 7 月からは、高齢者の買い物・通院を目的に公共交通空白地域から病院やスーパーが集積する中心部までの 2 路線を設定し、「いこかバス」と名付け運行を開始した。

平成 26 年 5 月には交通会議を、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づく協議会にも位置づけ、平成 27 年 7 月に本計画「紀北町地域公共交通網形成計画」を策定した。

平成 28 年 12 月末をもって、紀伊長島地域で営業していたタクシー事業者が廃業し、町内に営業所を持つタクシー事業者が皆無となった。このことから町は代替策を検討し、平成 30 年 7～9 月に河合線沿線及び東長島地区の公共交通空白地域で「いこかバス」

試験運行を実施し、さらに平成 30 年 9～12 月には相乗り運送実証事業を実施した。それらの結果を踏まえ、令和 2 年 2 月から町営での自家用有償運送(交通空白地)「おでかけ応援サービス『えがお』」を運行開始し、町内全域でタクシー的サービスを提供している。

## 【基本の方針】

町内地域公共交通の現状をさらに改善し、本来公共交通が果たすべき役割を發揮させることが、町の将来あるべき姿を目指すうえで大きな意味をもっている。そこで、地域公共交通の活性化及び再生の総合的かつ一体的な推進に関する基本的な方針を次のように定める。

### 基本の方針

「地域協働型で生活を支える移動手段の確保と  
にぎわい、元気なまちの実現に寄与する公共交通の充実」

---

---

## 2. 計画区域

---

---

計画の区域は、紀北町全域とする。

---

---

## 3. 計画期間

---

---

上位計画である、紀北町第1次総合計画後期基本計画(平成 24～28 年度)が平成 29 年度改定予定であり、次期総合計画は平成 29～33 年度の期間となる見込みであったことから、これとの整合を図り、本計画の期間は、平成 27 年度から平成 33 年度(令和 3 年度)までの 7 カ年とされた。しかしながら、コロナ禍に伴って、計画改定に必要な調査分析や、住民意見の反映といった作業が困難となったため、計画を最小限見直したうえで期間を 1 年延長し、令和 4 年度までに変更した。

## 4. 公共交通の現状

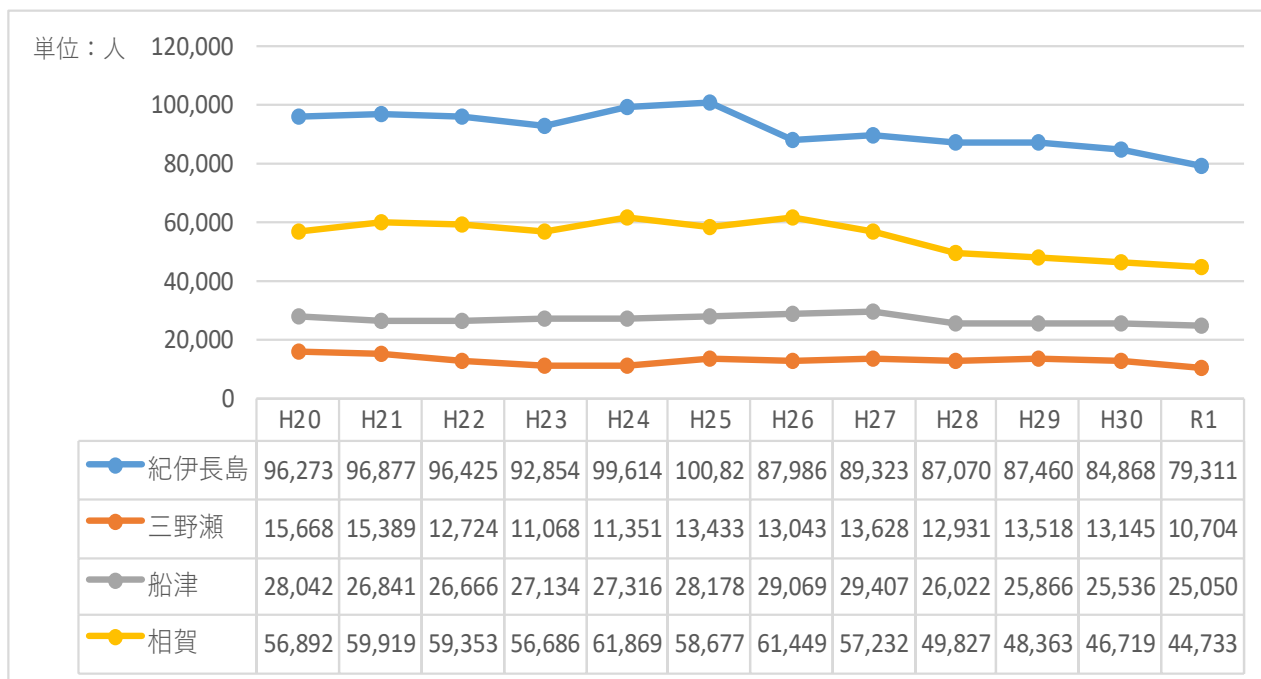
紀北町内の公共交通は、鉄道(JR紀勢本線)、路線バス、おでかけ応援サービス『えがお』により構成されている。

### 4-1 鉄道(JR紀勢本線)

本町には、JR紀勢本線が南北に縦断し、町内には紀伊長島、三野瀬、船津、相賀の4つの駅が存在している。1日に普通列車は上り9本、下線10本運行している。また、特急「南紀」は上下各4本運行されており、町内では、紀伊長島駅のみに停車している。

各駅の旅客乗車人員をみると、横ばいから緩やかな減少傾向で推移している。

駅別旅客乗車人員の推移



## 4-2 路線バス

本町の路線バスは、「いこかバス」(自主運行バス:海野線・便ノ山線)、尾鷲長島線、島勝線、松阪熊野線(平成30年10月1日より南紀特急バスから変更)、河合線(廃止代替バス)の6路線が運行している。また、東京・名古屋方面への高速バスが毎日運行している。

その他、尾鷲市須賀利地区～島勝(一部は尾鷲市内まで)の区間で尾鷲市がふれあいバス須賀利線を運行している。

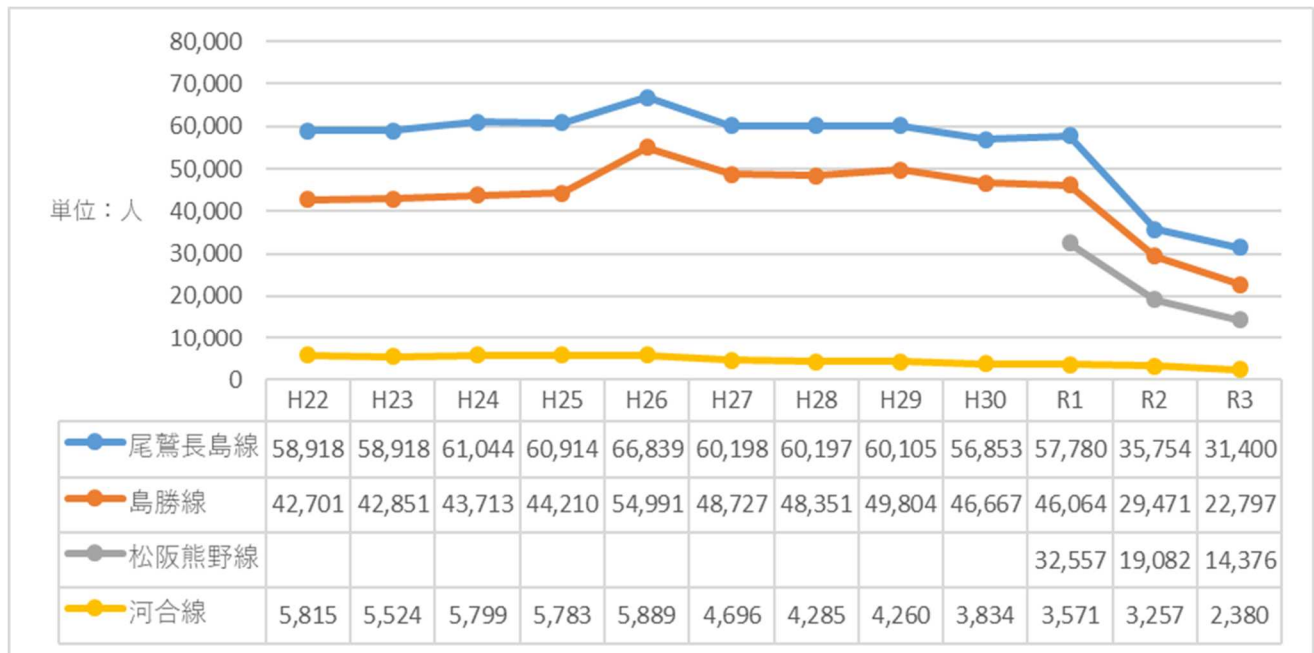


## バス路線 及び 高速バス路線 の状況

(令和4年1月末現在)

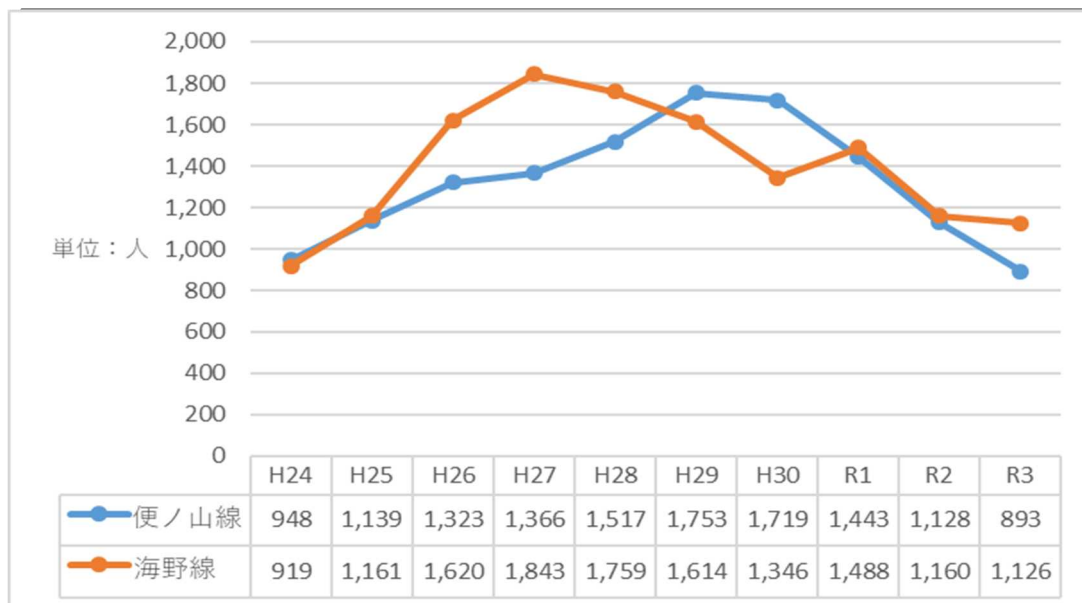
路線名称	始 点	終 点	往路本数	復路本数	事業者	公的補助(令和2年度)
いこかバス 海野線(月・木曜運行)	海野鏡神社	紀北町役場	3	2	紀北町 (三重交通㈱へ委託)	国庫補助金:649,000円
いこかバス 便ノ山線(火・金曜運行)	木 津	海山総合 支所	3	2	紀北町 (三重交通㈱へ委託)	国庫補助金:317,000円
河合線	紀伊長島駅前	河 合	3	3	紀北町 (三重交通㈱へ委託)	町委託料:8,829,700円
島勝線	島 勝	瀬木山	6 (土休日5)	6 (土休日5)	三重交通㈱	国庫補助金:4,168,500円 県補助金:4,168,500円 町補助金:1,400,000円
尾鷲長島線	紀伊長島駅前	瀬木山	7 (土休日6)	7 (土休日6)	三重交通㈱	国庫補助金:5,202,500円 県補助金:5,202,500円 町補助金:5,373,000円
松阪熊野線 (平成30年10月に 南紀特急線から変更)	三交南紀	松阪中央 病院	3	3	三重交通㈱	—
ふれあいバス 須賀利線	旧小学校前	島 勝	5	4(+セミ デマンド3)	尾鷲市	—
名古屋南紀高速線	三交新宮駅前	名古屋	5	5	三重交通㈱	—
高速南紀大宮線 (横浜・池袋・大宮行き)	勝浦温泉	大宮営業所	1	1	三重交通㈱ 西武観光バス㈱	

## 路線バス利用者数



※各年度の期間については前年 10 月から当該年 9 月まで

## いこかバス 利用者数



※各年度の期間については前年 10 月から当該年 9 月まで

※平成 23 年度については、いこかバスの運行開始が同年 7 月であるため省略



### 4-3 おでかけ応援サービス「えがお」

おでかけ応援サービス「えがお」は、平成 30 年度に実施した「相乗り運送実証事業」の実施成果やアンケート結果を踏まえ、令和 2 年 2 月 17 日より実証実験を実施した。

実証実験では、利用者アンケートにより意見を収集しており、その内容を踏まえて、令和 2 年 8 月 17 日より本格運行に移行する際には、10 分経過後の運賃の改正、早朝の予約運行の開始、予約可能期間の延長、キャッシュレス決済や初乗り回数券の導入などの改善を実施した。

運行開始から 1 年を経過する頃には、申込みの重複による時間変更やお断りが発生するようになったことから、令和 3 年 6 月 1 日より車両の増車(2 台⇒3 台)、夜間の予約運行の開始などの改善を実施し、必要となるドライバーの増員(2 名⇒3 名)、オペレーターの常時 2 名体制の確保を行っている。

#### ○おでかけ応援サービス「えがお」の概要

- ・自家用有償旅客運送(交通空白地有償運送)
- ・運行形態 ドアツードアのオンデマンド運送
- ・運行時間 午前 7 時～午後 8 時

※午前 7 時～8 時 30 分、午後 5 時 30 分～8 時の利用は、前日までに要予約

- ・受付時間 午前 8 時 20 分～午後 5 時
- ・運行範囲 紀北町内全域
- ・運賃 初乗り 10 分まで 600 円、以後 1 分ごとに 100 円加算

※65 歳以上の方は、初乗り回数券(初乗り 6 回 3,000 円)購入可能

- ・対象者 自分で車の乗り降りができる方、荷物を持てる方

#### ○利用状況

	令和 2 年度 (R1.10～R2.9) 実績			令和 3 年度 (R2.10～R3.9) 実績		
	運行日 (日)	運行回 数(回)	利用者 数(人)	運行日 (日)	運行回 数(回)	利用者 数(人)
おでかけ応援サービスえがお	45	224	267	358	3,086	3,763

---

## 5. 公共交通の課題整理と目標

---

※5-1～5-4 は、平成 27 年の策定段階での内容である。5-5 は、令和 4 年度末の目標について追記している。

### 5-1 上位計画における位置づけ

#### ◆紀北町第 1 次総合計画後期基本計画(平成 24 年策定)

【計画期間】 平成 24～28 年度

【将来像】 「自然の鼓動を聞き みなが集い、にぎわう やすらぎのあるまち」

【基本目標】

・自然と共生し、快適で安心して暮らせるまちづくり

交通・通信体系の整備（公共交通網の整備）

住民の日常生活、交流活動を支える交通手段として、鉄道・バス路線の利便性向上をはじめ、バス路線空白地域の移動手段の確保、高齢者の外出や児童・生徒の通学しやすい地域交通の充実など公共交通網の利便性向上を目指します。

・互いに支え合い、健康でいきいきと暮らせるまちづくり

・地域の資源を生かし、活力と魅力あふれるまちづくり

・豊かな心を育み、人と文化が輝くまちづくり

・自立をめざし、住民と行政がともに歩むまちづくり

#### ◆その他の関連計画

下記の計画は、公共交通の役割に関する記述がなされており、様々な分野における事業との関連が不可欠である。このため、本計画の推進は、以下の関連計画と連携し整合性を図りながら推進する。

・紀北町地域防災計画

緊急の交通・輸送機能の確保及び迅速な救助(緊急対策、公共輸送対策、公共交通の確保対策等を規定)

・紀北町観光振興プラン

紀北町における観光振興の展開(観光客の満足度の向上を図る、観光客の利便性の確保、車やバスで訪れる観光客への対応、古道の峠間を移動しやすい仕組みづくり)

・紀北町地球温暖化対策実行計画

公共交通機関利用の推進(県外出張の際は極力公共交通機関を利用する。自転車や徒歩通勤の推進について、通勤距離が 2km 未満の職員は徒歩もしくは自転車により通勤する)

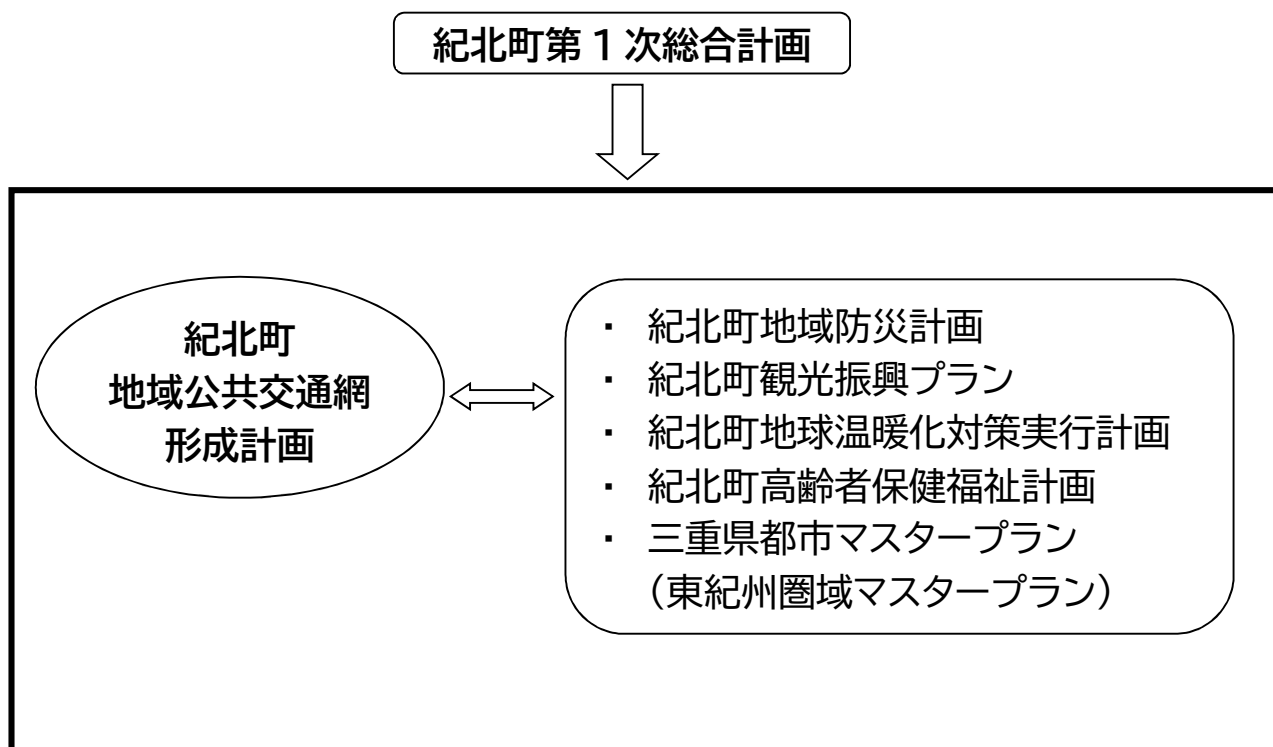
・紀北町高齢者保健福祉計画

生活環境の整備(高齢者の外出支援は、福祉有償運送の利用を啓発するとともに、バス路線空白地域においては、試験運行などを踏まえて調査研究を進める)

・三重県都市マスタープラン(東紀州圏域マスタープラン)

交通結節点及び周辺の整備と地域拠点間の連携(高齢化社会における重要な移動手段である公共交通ネットワークの利便性を高める。また、地域拠点への公共交通によるアクセス性の向上を促進する)

★ 紀北町都市計画マスタープランについては、策定されていない。



## 5-2 町民の主な意見

計画策定にあたり、課題の抽出・目標の設定等を行うために、バス利用者・老人クラブ・路線バス運行業者・タクシー会社等に対するヒアリング調査を実施するとともに、町民及び各地区自治会(区)に対しアンケートによる意見募集を行った。

### 調査の概要

平成 26 年 9 月～12 月に、老人会・婦人会等延べ 25 団体・251 名に対し、公共交通に関するヒアリング調査を実施した。また、自治会(区)に対し、公共交通の充実に向けたアンケートによるご意見を募集し、回答を得た。

### ヒアリング及びアンケート等による主な意見

- ・ 既存の運行車両を見直すとともに既存の停留所だけではなく、医療機関・スーパー・金融機関等へ停留所を設置してほしい。
- ・ 地域の状況に応じて利便性を向上してほしい。
- ・ 既存路線バスは、通院・買い物の目的に利用するには、運行ダイヤ・ルートとも利用しにくいいため見直しを実施してほしい。
- ・ 交通不便地域に対応した、いこかバスのような地域のニーズに応じた公共交通を導入してほしい。
- ・ 地区から商店がなくなったことによる、日頃の買い物の不便さを解消してほしい。
- ・ 「いこかバス」を町内全域に実施する。あるいは、何時でも利用できる乗合タクシー等の利用法も検討してほしい。
- ・ 高齢化が進む中、車の運転ができなくなる人が増加している。身近な交通手段を確保してほしい。
- ・ 年金受給者が多くなっている中、路線バスの運賃は高額なため運賃の見直しや高齢者割引運賃を実施してほしい。
- ・ 既存のバス停・鉄道駅までが遠い地域に乗合・巡回小型車両の公共交通を導入してほしい。
- ・ 公共交通空白地域においては、出来るだけきめ細かいコース・時刻などを設定し、試験運行を繰り返し利用者の意見を踏まえながら、よりよい公共交通の体系を創ってほしい。
- ・ 定額料金の設定及び、JR・バス路線・タクシーまたは、商店等が協力し合い運行をしてほしい。
- ・ 町イベント等に参加するための巡回バスを運行してほしい。

### 5-3 主な移動ニーズ

町内の公共交通における主な移動ニーズについては、紀伊長島地区・海山地区ともに、医療機関・金融機関・スーパー等が集積する東長島地区・相賀地区への移動ニーズが高い。その他、きいながしま古里温泉・各イベント等への移動ニーズがある。

また、町外への主な移動ニーズについては、尾鷲市の尾鷲総合病院・商業施設のほか、伊勢市の赤十字病院等への移動ニーズがある。

これら住民の移動ニーズを十分に満たせていない路線や地域が存在する。ニーズを考慮した公共交通サービスの提供が必要である。

### 5-4 課題の整理

公共交通の現状及びヒアリング、アンケート調査の主な意見から、課題を以下の5つに整理した。

#### 【課題 1】 公共交通不便・空白地域への対応

町内には、鉄道駅やバス停から遠く、公共交通の利用が不便な地域が広く存在している。

また、人口減少に加え高齢化が急速に進んでおり、運転免許証返納者の増加も予想されることから、公共交通空白地域の移動困難者のニーズに対応した、効率的・効果的な交通システム構築の検討が必要である。

#### 【課題 2】 利便性の向上

現在の公共交通は、地域のニーズに合っていない部分もあり、利用人数の少ない路線がある。地域の実情に合った運行形態の選択によって利便性を向上しつつ持続可能な運行方法を確立する必要がある。

また、利用目的に応じた路線・運行時刻の設定や他の交通機関との乗継を良くするなど、利便性の向上による利用促進と運行の効率化を図り、各運行事業者の相互の連携が図られるような交通ネットワークの構築が必要である。

### **【課題3】 利用しやすい新たな運賃体系の検討**

既存バス路線は、距離制の運賃体系を採用しているが、安価な運賃を望む声が多く、公共交通が利用しづらいことにもつながっているという意見が多い。そこで、運賃体系を見直し、町内同一運賃体系や高齢者に対する割引制度を検討する必要がある。

### **【課題4】 まちづくりとの連携**

町内における公共交通利用者の多くは、紀伊長島地区・海山地区のスーパー・金融機関・医療機関が集積する中心部が目的地となっているが、地元の商店等との連携によるバスの利用促進や町が行う行事やイベント等に参加できる交通の確保も必要である。

### **【課題5】 町民・交通事業者・行政等による協働の仕組みづくり**

町や運行事業者だけで、地域や利用者のニーズを全て把握することは困難であり、住民参加型の行政・事業者・地域の協働による公共交通を支える仕組みづくりが必要である。

## 5-5 計画の目標

前節で整理した課題等を踏まえ、計画の目標を次のとおり設定する。

### 目標① 地域特性・利用者ニーズに即して、効率的な運行体系の構築

公共交通不便・空白地域の解消を図るべく、既存の公共交通の充実と、町内の集落をカバーする公共交通の整備の二段構えによる、各地域に合った利便性の高い運行体系の構築を目指します。

### 目標② 地域の活性化に資する交通サービスの提供と利用促進

町内の店舗、医療機関、公民館等の公共施設と連携し、公共交通利用者に対する割引制度の導入を検討するとともに、運賃体系の見直しや地域ポイントカードとの連携を目指します。

### 目標③ 地域の主体的な取組みを支援し一丸となる仕組みづくり

持続可能な公共交通を確立するため、行政や交通事業者だけでなく、利用者や自治会等の地域関係者が協働・連携による公共交通を支える仕組みづくりを目指します。

## 具体的な目標値

### 【紀北町全体】

#### ◆満足度指数

(紀北町第2次総合計画後期基本計画)

	平成18年度 数値	平成22年度 数値	平成27年度 数値	令和2年度 数値	目標値 (令和4年度)
交通機関 の便利さ	28.7	30.8	34.4	31.6	33.0

★ 指標値は、平成18年度・平成22年度・平成27年度・令和2年度に実施した町民のアンケート調査を基に換算を行った値。

令和4年度目標値については、平成22年度から平成27年度の5年間で増加した数値を基に設定している。

#### ◆公共交通空白地域の解消

現在の公共交通不便・空白地域について、公共交通(バス・乗合タクシー・一般タクシー等)の利用を可能とする。

令和2年度より、おでかけ応援サービスえがおの町内全域での本格運行を開始し、目標を達成した。

	平成26年度数値	令和3年度数値
公共交通不便・空白地域	16地区/107地区	0地区/107地区

- ・ バス停・駅からの距離が半径500mにかかっていない地域
  - ・ 紀伊長島地区 (6地区) 名倉・片上・三戸・大野内・江竜・有久寺
  - ・ 海山地区 (3地区) 河内・小松原・小浦
- ・ 地域の一部がバス停・駅からの半径500mにかかっていない地域
  - ・ 紀伊長島地区 (4地区) 島地・戸ノ須・田山・志子奥
  - ・ 海山地区 (3地区) 馬瀬・鯨・矢口浦



## 【各バス路線】

### ◆ いこかバス

	平成 26 年度 (H25.10～H26.9) 実績		平成 27 年度 (H26.10～H27.9) 実績		平成 28 年度 (H27.10～H28.9) 実績	
	利用者数	収支率	利用者数	収支率	利用者数	収支率
海野線	1,620 人	12.7%	1,843 人	10.8%	1,759 人	11.2%
便ノ山線	1,323 人	9.8%	1,366 人	10.4%	1,517 人	13.5%

	平成 29 年度 (H28.10～H29.9) 実績		平成 30 年度 (H29.10～H30.9) 実績		令和元年度 (H30.10～R1.9) 実績	
	利用者数	収支率	利用者数	収支率	利用者数	収支率
海野線	1,614 人	9.8%	1,346 人	8.8%	1,488 人	8.2%
便ノ山線	1,753 人	13.0%	1,719 人	11.4%	1,443 人	9.8%

	令和 2 年度 (R1.10～R2.9) 実績		令和 3 年度 (R2.10～R3.9) 目標		令和 4 年度 (R3.10～R4.9) 目標	
	利用者数	収支率	利用者数	収支率	利用者数	収支率
海野線	1,160 人	6.9%	1,126 人	6.7%	1,148 人	6.8%
便ノ山線	1,128 人	7.6%	893 人	6.1%	910 人	6.2%

※収支率については各当年 4 月から翌年 3 月までの数値

◆ 廃止代替バス

	平成 26 年度 (H25.10～H26.9) 実績	平成 27 年度 (H26.10～H27.9) 実績	平成 28 年度 (H27.10～H28.9) 実績
	利用者数	利用者数	利用者数
河 合 線	5,889 人	4,696 人	4,285 人

	平成 29 年度 (H28.10～H29.9) 実績	平成 30 年度 (H29.10～H30.9) 実績	令和元年度 (H30.10～R1.9) 実績
	利用者数	利用者数	利用者数
河 合 線	4,260 人	3,834 人	3,571 人

	令和 2 年度 (R1.10～R2.9) 実績	令和 3 年度 (R2.10～R3.9) 実績	令和 4 年度 (R3.10～R4.9) 目標
	利用者数	利用者数	利用者数
河 合 線	3,257 人	2,380 人	2,403 人

## ◆路線バス

路線バスの利用者数目標は、三重県生活交通ネットワーク計画(地域間幹線系統)において「輸送量の現状維持」を目標として掲げているため、整合性を考慮して現状維持を目標とします。

	平成 26 年度 (H25.10～H26.9) 実績		平成 27 年度 (H26.10～H27.9) 実績		平成 28 年度 (H27.10～H28.9) 実績	
	利用者数	輸送量	利用者数	輸送量	利用者数	輸送量
尾鷲長島線	66,839 人	18.4	60,198 人	16.5	60,197 人	16.5
島 勝 線	54,991 人	19.6	48,727 人	16.2	48,351 人	16.2

	平成 29 年度 (H28.10～H29.9) 実績		平成 30 年度 (H29.10～H30.9) 実績		令和元年度 (H30.10～R1.9) 実績	
	利用者数	輸送量	利用者数	輸送量	利用者数	輸送量
尾鷲長島線	60,105 人	16.5	56,853 人	15.1	57,780 人	15.0
島 勝 線	49,804 人	16.8	46,667 人	15.6	46,064 人	15.1

	令和 2 年度 (R1.10～R2.9) 実績		令和 3 年度 (R2.10～R3.9) 実績		令和 4 年度 (R3.10～R4.9) 目標	
	利用者数	輸送量	利用者数	輸送量	利用者数	輸送量
尾鷲長島線	35,754 人	9.2	31,400 人	7.9	33,000 人	9.2
島 勝 線	29,471 人	9.5	22,797 人	7.2	23,000 人	8.1

(注) 輸送量 = 平均乗車密度 × 1 日の運行回数

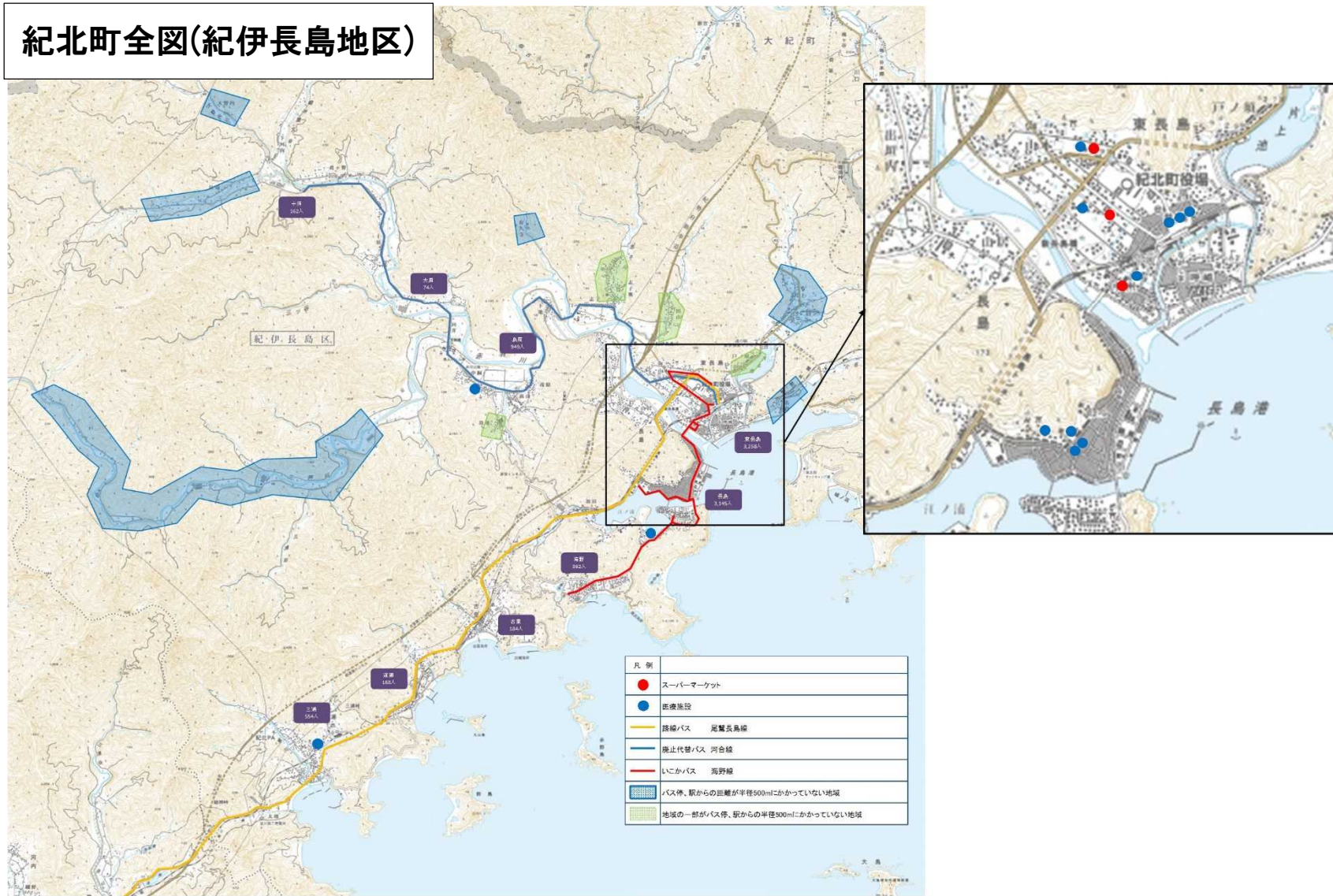
平均乗車密度: バス 1 便当たりの平均利用者数で、始点から終点まで平均して常時バスに乗っている人数。

◆おでかけ応援サービス『えがお』

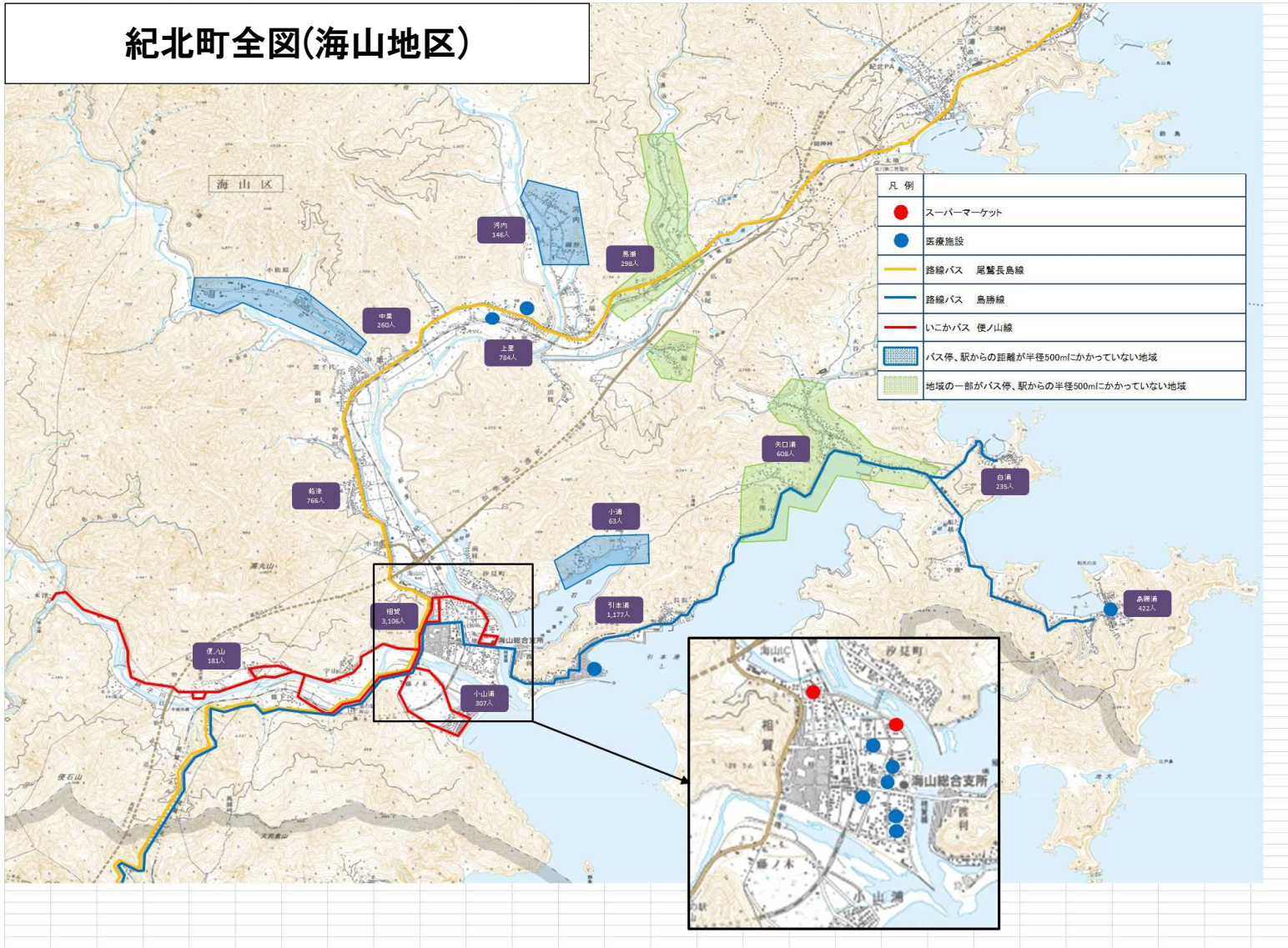
	令和 2 年度 (R1.10~R2.9) 実績			令和 3 年度 (R2.10~R3.9) 実績			令和 4 年度 (R3.10~R4.9) 目標		
	運行日 (日)	運行回 数(回)	利用者 数(人)	運行日 (日)	運行回 数(回)	利用者 数(人)	運行日 (日)	運行回 数(回)	利用者 数(人)
おでかけ応援サ ービスえがお	45	224	267	358	3,086	3,763	359	3,231	3,949

※令和 2 年度は、令和 2 年 8 月 17 日~9 月 30 日

# 紀北町全図(紀伊長島地区)



# 紀北町全図(海山地区)



---

## 6 目標を達成するために行う事業及び実施主体

---

次の3つを掲げ、各事業については連携し、協働で実施する。

### 6-1 「地域の特性・利用者ニーズに即した、効率的な運行体系の構築に向けて」

#### ★公共交通不便地域・空白地域改善事業 【紀北町・バス運行事業者・地域住民】

公共交通不便地域・空白地域における公共交通の運行については、地域の特性やニーズに合った運行方法を選択し、地域の特性にあった輸送を地域と行政及び事業者が連携して実施する。

そのため、「乗合タクシーの導入」等を検討する。

#### ★既存交通再編・利用促進事業 【紀北町・運行事業者】

利便性の向上を目指し、効率的な運行となるよう、次のように再編を目指す。

### 鉄道

#### ◆JR紀勢本線 【紀北町】

南紀、東紀州交通対策委員会等と連携し紀勢本線の利用促進を図る。

#### ・乗車促進PR事業

町内外において熊野古道、温泉等の観光資源のPR活動と連携したパンフレット等の配布を行う。

広報誌、ホームページ、行政放送などを活用し、乗車促進PR 等を実施する。

### 路線バス

・地域公共交通確保維持改善事業も活用しつつ維持を図る。

#### ◆河合線(廃止代替バス) 【紀北町・バス運行事業者】

・長年見直しを行っておらず、利用が非常に少なくなっていることから、次期計画に向けて抜本的な見直しを行うための調査や検討を実施する。

#### ◆いこかバス海野線・便ノ山線(自主運行バス) 【紀北町・バス運行事業者】

・自治会、利用者等からの意見を常に把握し、きめ細かなサービスの提供に結びつける。  
・更なる利用促進を図るため、午後の運行実施を検討する。  
・商業施設、医療機関、町営施設等との連携による新たなサービスの構築を図る。  
・地域公共交通確保維持改善事業費補助金(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金等)も活用しつつ、より安定的な路線の維持を図る。

- ◆**島勝線及び尾鷲長島線（三重交通 路線バス）【紀北町・三重交通株式会社】**
- ・買物、通院等地域の利用目的に合わせたダイヤ改正等により利便性の向上を図る。
  - ・島勝線及び尾鷲長島線の国道相賀（海山バスセンター）～瀬木山間は、同じような時間帯でそれぞれ運行しているため、運行事業者等と協議し効率化と利便性の向上を図る。
  - ・地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域間幹線系統確保維持費補助金）も活用しつつ、より安定的な路線の維持を図る。

- ◆**松阪熊野線（三重交通 路線バス）【紀北町・三重交通株式会社】**
- ・三交南紀～松阪中央病院間の松阪熊野線は、尾鷲長島線と同ルートを運行しているため、両路線のダイヤを調整し利便性向上を図るとともに、観光路線としての対外的な広報宣伝活動や、観光地・施設との協力による特典付与などを行い、利用者増加を図る。
  - ・地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域間幹線系統確保維持費補助金）も活用しつつ、より安定的な路線の維持を図る。

- ◆**乗り継ぎ拠点施設【紀北町・三重交通株式会社】**
- ・三重交通海山バスセンターは、尾鷲長島線、島勝線、松阪熊野線、いこかバス便ノ山線、名古屋南紀高速線、高速南紀大宮線が停車する町内で唯一の乗り継ぎ拠点施設であることから、利用者の利便性や運行の安全性を図るため、施設の整備を進める。

- おでかけ応援サービス「えがお」【紀北町】**
- ・タクシー的サービスの機動性や柔軟性を活かした町内の生活交通としての運行内容充実を進め、利用促進を図る。また、鉄道・路線バスの端末輸送として利用されるような取り組みを進める。さらに、新たな町内周遊の観光プランなど町外からの来訪者に対するサービスの提供を促進する。



## 6-2 「地域の活性化に資する交通サービスの提供と利用促進」

### ★地域内バス交通の共通運賃や乗り継ぎ割引料金の設定

【紀北町・バス運行事業者】

・運行事業者との協働による「いこかバス」路線の運賃体系や共通運賃、乗り継ぎ割引等を検討する。

### ★高校生バス通学定期補助の実施

【紀北町・三重交通株式会社】

・尾鷲高校にバス通学する高校生に対して通学定期券運賃の約4割を補助する制度(平成30年4月開始)を継続する。

### ★ICカードシステム普及事業

【紀北町・三重交通株式会社・商工会】

・三重交通株式会社が平成28年4月に導入し、県内の全路線(東京への高速バスを除く)で使用できるICカードの普及を図る。  
・みえ熊野古道商工会と連携して導入した、「ご当地ICカード(熊野古道カード)」による運賃支払いのシステムを町民にPRし、利用促進を図る。

### ★商業事業者と連携した特典づくり

【紀北町・バス運行事業者・商業事業者】

・町内の商業事業者と連携を図り、買い物割引や運賃割引券等の導入について協議を行う。

### ★運転免許証自主返納支援

【紀北町・尾鷲警察署・三重交通株式会社】

・高齢者の運転免許証自主返納を促すため平成30年4月から実施している、自主返納者の「いこかバス」運賃半額割引制度を継続するとともに、免許返納者への優遇措置を紹介する三重県のホームページ「運転免許証自主返納サポートみえ」への掲載などを通じて周知を行う。

・三重交通株式会社が実施している運転免許返納割引定期券“セーフティーパス”の広報宣伝を行う。

### 6-3 「地域の主体的な取組みを支援し一丸となる仕組みづくり」

#### ★モビリティ・マネジメントの実施

【紀北町・バス運行事業者・地域住民】

・町民が、公共交通の利点を理解し自らが利用することを目指し、地域が主体となる取組みを支援するため、地域住民、小・中・高学生、企業、老人クラブに対し、モビリティ・マネジメント事業を実施する。

※モビリティ・マネジメント

当該地域の「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通等多様な交通手段を適度に利用する状態」へ少しずつ変えていく一連の取組み。

「環境や健康などに配慮した交通移動を大規模、かつ、個別的に呼びかけていくコミュニケーションを中心とした交通施策」

- ① バスの乗り方教室の開催
- ② 各地区でバス乗車体験の開催
- ③ 各イベントにおいて公共交通PRの実施

#### ★わかりやすい情報提供の実施

【紀北町・バス運行事業者】

・三重県が実施する「公共交通ネットワーク見える化」事業と連携し、インターネット等を使用した公共交通乗り継ぎ検索サイトへの情報掲載や利用目的別、地域別のバスマップや時刻表の作成等を行う。

## 6-4 実施主体及びスケジュール

計画の目標 との対応	事業名	実施主体	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
目標① 既存交通の再編・ 利用促進事業	公共交通不便地域・空白地改善事業	紀北町・運行事業者・ 地域住民	検討協議 → 段階的に運行開始（適時運行サービスの見直し） →							
	鉄道	紀北町	継続的实施 →							
	河合線	紀北町・ バス運行事業者	協議・調整 → 実施・改善（適時運行サービスの見直し） →							
	いこかバス	紀北町・ バス運行事業者	協議・調整 → 実施・改善（適時運行サービスの見直し） →							
	島勝線	国・三重県・紀北町・ バス運行事業者	協議・調整 →		検討・実施 →					
	尾鷲長島線	国・三重県・紀北町・ バス運行事業者	協議・調整 →		検討・実施 →					
	南紀特急バス	紀北町・ バス運行事業者	協議・調整 →							
	松阪熊野線	国・三重県・紀北町・ バス運行事業者	協議・調整 →							
	乗り継ぎ 拠点施設	紀北町・ バス運行事業者	協議・調整 →				検討・実施 →			
	タクシー	紀北町・ タクシー運行事業者	協議・調整 →		検討・実施 →					
おでかけ応援 サービスえがお	紀北町・バス運行事業者・ 福祉タクシー事業者	協議・調整 →				検討・実施 →				
目標②	地域内バス交通の共通運賃や 乗り継ぎ割引料金の設定	紀北町・運行事業者	協議・調整 →		検討・実施 →					
	ICカードシステム導入事業	紀北町・運行事業者・ 商工会	協議・調整 →		順次整備 →					
	商業事業者と連携した特典づくり	紀北町・運行事業者・ 商業事業者	協議・調整 →		検討・実施 →					
	運転免許証自主返納支援	紀北町・管轄警察署	協議・調整 →		検討・実施 →					
目標③	モビリティ・マネジメントの実施	紀北町・運行事業者・ 地域住民	協議・調整・実施 →							
	わかりやすい情報提供の実施	紀北町・運行事業者	協議・調整・実施 →							

## 7 達成状況の評価に関する事項

計画で掲げた事業に関する評価については、事業継続の判断や利用者ニーズ等に応じた改善を実施するため、PDCAサイクルに基づく評価及び検証を行う。その際、5-5 節で設定した目標値を用いる。

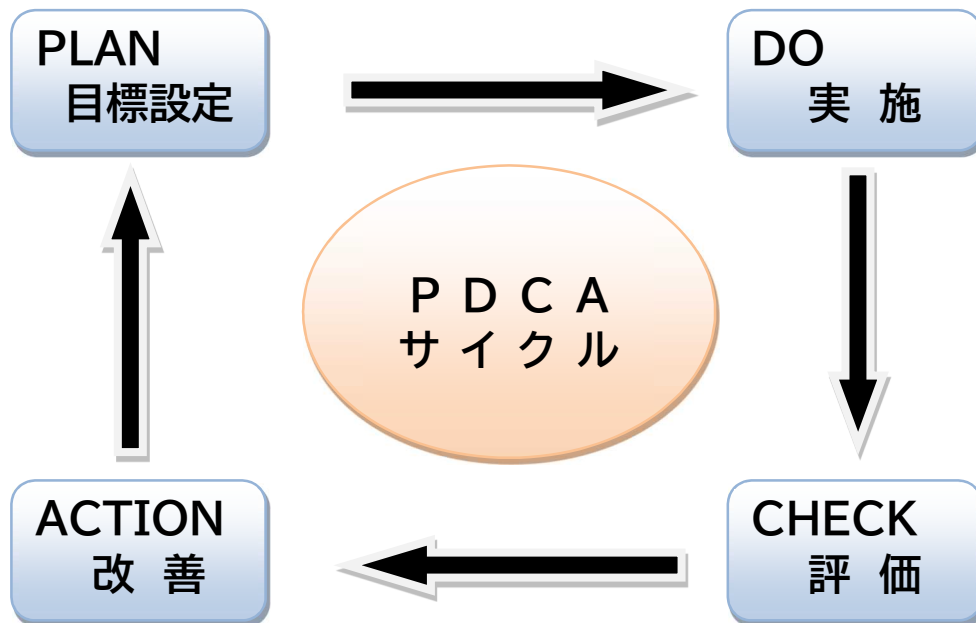
### ◆PDCAサイクルの実施

地域の状況、課題の確認等により設定した(Plan)目標、事業を達成するため、各実施主体が実施していく取り組み(Do)を、把握、評価し(Check)、評価結果を踏まえ改善点があれば見直しを検討し(Action)、事業の改善に繋げる(Plan)といったPDCAサイクルを実施する。

このPDCAサイクルは、毎年度の事業実施で行うものと、4年目で計画全体を評価する中期的な評価及び検討を実施する。

### ◆評価体制について

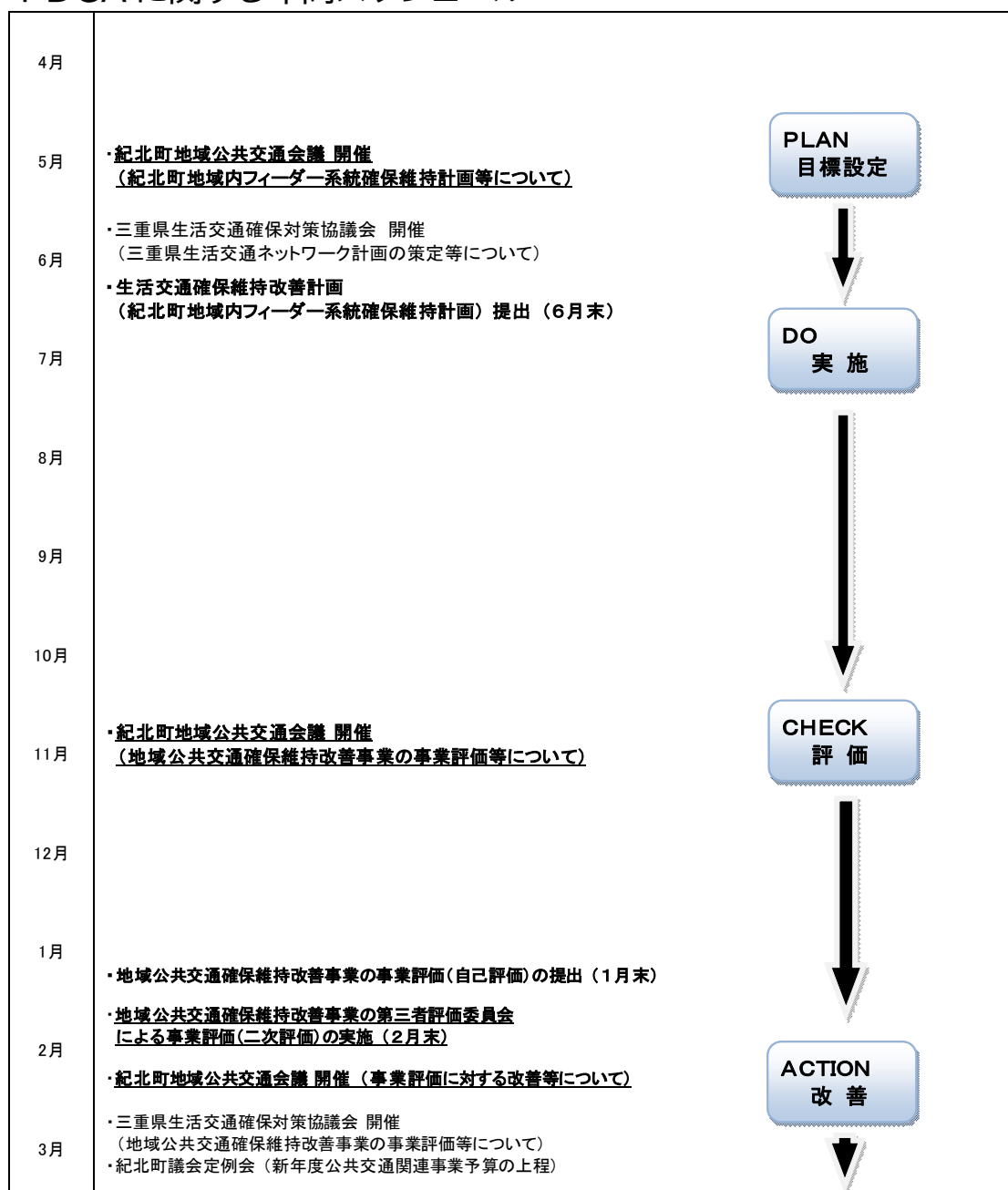
PDCAサイクルの実行は、住民、利用者の代表、交通事業者、行政、様々な立場の委員が参画している「紀北町地域公共交通会議」において実施する。



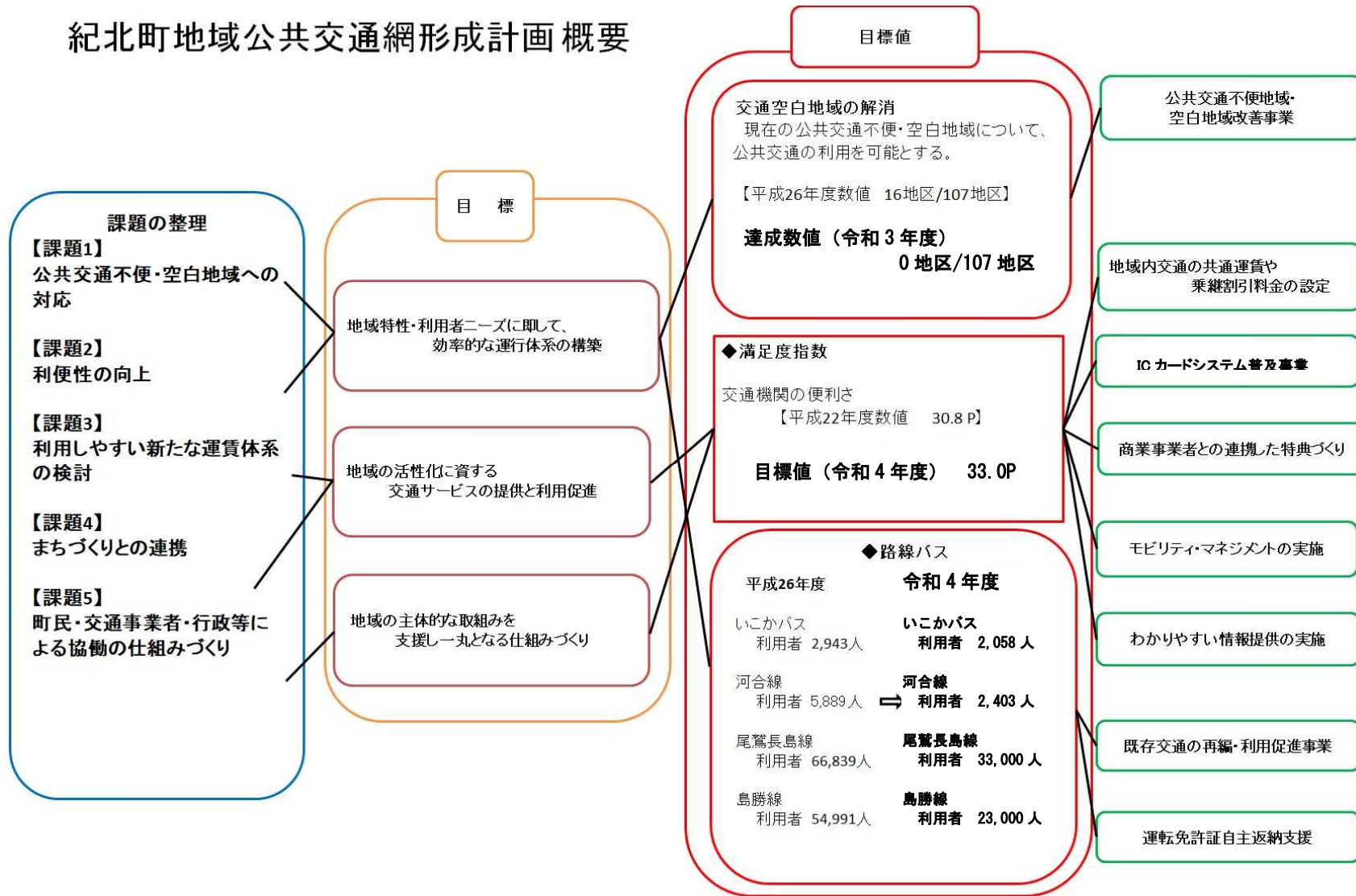
## ◆利用者、地域住民及び関係団体からの意見の把握

計画を地域及び利用者のニーズに合ったものにしていくため、地域や各関係団体からの聞き取り、利用者へのアンケートを実施しニーズの把握に努める。

### PDCAに関する年間スケジュール



# 紀北町地域公共交通網形成計画概要



## 付 録

「ヒアリング調査及びアンケート調査の意見等」

## 割引 町助成 運賃体系に対するご意見

- ・小銭の運賃は、払にくいと思うので定期券等の対応があるのではないか。
- ・尾鷲長島線の運賃が高い。
- ・定期券を販売してほしい。
- ・海野地区は、他地区に比べ運賃が高い。
- ・町のバス事業なので、便数を増やし利益を考えるのではなく、運賃を安く改定してほしい。
- ・町内均一のバス料金の設定をしてほしい。
- ・JR・バス等にも高齢者割引があればいいと思う。
- ・公共交通施策について、町内全域で平等に恩恵を受けられるよう高齢者等の制限を決め、タクシーチケットの配布を検討してほしい。
- ・バスは運賃が高い。
- ・回数券を販売してほしい。
- ・三交のバスは、JRに比べて運賃が高い。
- ・運賃に高齢者割引がほしい。
- ・いこかバスの初乗り運賃 200 円は高い。
- ・町が運賃を補助する制度を作してほしい。
- ・運賃については、現金で払うのではなく半年間の定期券や回数券を事前に購入した方が良くと思う。
- ・現在は、三重交通やタクシーで尾鷲病院等を利用すると片道 3,000 円程度かかるので福祉タクシー（片道 2,300 円程度）を予約して使っている。
- ・タクシー利用者にも高齢者割引など町で助成を考えてはどうか。
- ・料金はできるだけ安い方がいいし、一律料金がいい。
- ・年金受給者が多くなっている中、路線バスの運賃は高額なため運賃の見直しや高齢者割引運賃を実施してほしい。
- ・一定の料金設定とし、JR・バス路線・タクシーまたは、商店等が協力し合い運行をしてほしい。
- ・バス運賃の助成を検討してほしい。
- ・気軽に交通機関を利用できるように高齢者専用のクーポンのようなものを配布し利用促進に努めてはどうか。



## 新規路線に対する意見

- ・今後のバス運行は、海野・便ノ山地区だけでなく駅を中心に8の字で運行すればいいのではないか。
- ・月1回でも構わないので、横町・新町にバスを運行して尾鷲まで行ってほしい。
- ・事業者ではなく、町内全域をコミュニティバスが運行してはどうか。
- ・大阪・京都行バスを運行してほしい。または、名古屋高速バス・南紀特急バスがどこかで大阪・京都行バスと連絡してほしい。
- ・伊勢赤十字病院行きは、1日1便だけでも運行してほしい。
- ・伊勢赤十字病院を利用している人が多いと思うが、JRでは乗継が悪く、現在バスは伊勢行きがないので、伊勢行きのバスを運行してほしい。
- ・尾鷲総合病院終着のバスを1日1~2便ほしい。
- ・小浦地区にもバスがほしいという意見を聞いている。
- ・今後は、町内巡回型バスを設定してほしい。
- ・片上区から要望したように、この地区には公共交通機関が無いのでいこかバスのような巡回バスをお願いしたい。
- ・バスを導入するのであれば、障害者・高齢者に配慮して運行すべき。
- ・片上地区は、ルートを具体的に考えると東長島まで町内を巡回できると思う。
- ・呼崎、名倉地区もバスを運行してほしい（主な目的…買い物）
- ・ルートは片上地区と合わせて考えられるのではないか。
- ・昼からの便も運行してほしい。  
病院、買い物以外なら、古里温泉がいい。
- ・バス運行の回数は、週2回で十分である。
- ・既存の運行車両を見直し、ジャンボタクシー車両程度に変更し既存の停留所だけではなく、医療機関・スーパー・金融機関等へ停留所を設置してほしい。
- ・交通不便地域に対応した、いこかバスのような地域のニーズに応じた公共交通を導入してほしい。
- ・「いこかバス」を町内全域に実施する。あるいは、何時でも利用できる乗合タクシー等の利用法も検討してほしい。
- ・既存のバス停・鉄道駅までが遠いため、地域に乗合・巡回小型車両の公共交通を導入してほしい。
- ・公共交通空白地においては、出来るだけきめ細やかないくつかのコース・時刻な

どの設定をし、試験運行を繰り返し利用者の意見を踏まえながらよりよい公共交通を作ってほしい。

- ・いこかバスは紀北町全域に必要があると思う。
- ・当地域は、公共交通機関が無く特に高齢者も多くバス停の新設とルートの特長を延長を実施してほしい。
- ・いこかバスのエリア拡大と利用希望者の希望日に合った対応（予約制）が必要である。
- ・バスを運行していただけるのであれば、買い物・通院に利用したい。
- ・夏にキャンプ inn 海山に走らせるのはどうか。
- ・古里温泉に行きたくても、足が悪く行けない方がいるので、古里温泉にも運行してほしい。
- ・町内にレンタカーはないので、観光客に対しての活用も考えられるのではないか。
- ・町が実施する健康ウォークについて参加の通知は来るが、交通手段がないので実施場所まで行けない。バス送迎を行ってみんなに参加したい。
- ・車が無いので町のイベントには参加しにくい、イベント参加を呼び掛けるのであれば交通手段もあわせて検討してほしい。
- ・老人クラブで夜のイベント（文化の夕べ等）に利用できるバスがほしい。
- ・今後、高齢者が増加するので公共交通は確保してほしい。
- ・イベントの時だけ発車するバスも利用したい。みんなでイベントに参加してみたい。
- ・町イベント等に、参加するための巡回バスを運行してほしい。
- ・現在のバス路線の廃止も視野に、尾鷲・紀北町の行政の枠を超えたバス運用も必要だと思う。
- ・買い物弱者対策として、物品販売や移動カフェ等の工夫する必要がある。
- ・区民が月 100 円程度負担しその負担金を基金とし、町の助成・店舗等にも協力を募り、週 3 回程度のワゴン車を利用する事業を検討してほしい。
- ・何日かに 1 度は、無料バスを運行してみてはどうか。
  
- ・西長島地区に商店が無くなり、日ごろの買い物の不便さを解消してほしい。
- ・地区から商店が無くなり、日ごろの買い物の不便さを解消してほしい。
- ・高齢化が進む中、車の運転ができなくなる人が増加している。身近な交通手段を確保してほしい。

## 既存の運行ダイヤ・便数・ルート等に対するご意見

- ・既存路線バスは、通院・買い物の目的に利用するには、運行ダイヤ・ルートとも利用しにくいいため見直しを実施してほしい。
- ・既存バス路線は、ルートによってはスクールバス及びジャンボタクシー程度の車両に変更し、医療機関・ホームセンター・スーパー・金融機関への停車も検討してほしい。
- ・乗っている人にバラツキがあるので、時間などを調整すれば効率的に運行できるのではないか。
- ・町営バスとして運行してはどうか。
- ・尾鷲まで行くために、現在、国道のバス停までタクシーを利用しそこから、尾鷲長島線を利用している。
- ・JRは、現在ほとんど利用しない。
- ・小山浦から矢口まで行くのに乗継が不便。
- ・道幅が狭いが、バス停はもう少し人家に近づけてほしい。
- ・今回、大きいバスを購入するが、ワゴンなど何台か購入した方がいいのではないか。
- ・公共交通利用の目的は買い物で東長島が主になる。(主婦の店、オークワなどの東長島)
- ・利用者への地域にあった利便性を向上してほしい。
- ・バス・JRにおいてももう少し本数を増やしてほしい。
- ・馬越峠を歩き、道の駅海山から JR 相賀駅まで歩いている人もいるので、バスの対応もしてあげてほしい。
- ・運行時間が悪い。
- ・燈籠祭は、シャトルバスを運行しているが最寄りの停留所が若者センターまでなので大原・十須まで運行してほしい。
- ・町や社協が主催するイベント等には、行きたいが交通手段がないため行ったことがない。バスが利用できるのであれば、みんなで利用したい。

## いこかバスに対する意見

- ・ 昼からの便を設定してほしい。
- ・ 漁業関係に従事されている人は、土曜日が休日なので土曜日にいこかバスを運行してほしい。
- ・ 現在、月・木曜日に運行をしているが、木曜日は病院が休館日のところがあるため、もう一日別の曜日に運行をしてほしい。
- ・ 第一便のダイヤが少し早いので、もう少し遅くしてほしい。
- ・ 主婦の店にも行ってほしい。
- ・ JR 乗継が合っていない。
- ・ 西町もショッピーが無くなりバスの利用が増えていると聞いている。
- ・ 午後からの便をつくってほしい。
- ・ 午後からの便を設定してほしい。
- ・ 第 2 便、第 3 便を少し遅らせてほしい。第 2 便は、買い物で設定しているがちょっと早くて商品がお店に並んでいないことが多く、第 3 便は、あまり利用しないので午後からの便に回してほしい。
- ・ 14 時から 15 時の間で便を利用したい。
- ・ いこかバスのフリー降車は便利であるため、車両を更新しても継続して実施をしてほしい。
- ・ 海山地区にある加藤内科を利用する方は、現在の停留所では遠いので、病院前まで行ってあげてほしい。
- ・ 便ノ山線を設定してくれてありがたいという意見を聞く。
- ・ いこかバスと同じように週 1~2 回の運行でいいので運行をお願いしたい。
- ・ いこかバス海野線を週 3 回にしてほしい。
- ・ 昼からの運行も検討してほしい。
- ・ 町内のバスは、浜通りしか通らずバス停までいくのも、高齢者には負担がかかる。
- ・ 古里温泉行・主婦の店行きを希望される方がいる。
- ・ 海野線は、町道部分が狭いため駐車・停車が多いので立札等で対応してほしい。
- ・ 運転手さんは、親切でいつも感謝している。
- ・ 水・土曜日の運行から、月・木曜日の平日 2 回の運行になって、銀行や役場の利用がしやすくなって良かった。
- ・ 海野地区は、尾鷲まで行くことはなく町内で買い物・通院をする方がほとんどで

ある。

- ・海野線の利用者からは特に午後からの便を設定してほしい。
- ・午後から運行も三重交通としては乗務員が対応できる体制でいる。
- ・入江町から乗降が困難な方がいる。乗務員も車から降りて乗降の補助を行っているが、基本的に利用者の身体に触れないようにしている。
- ・いこかバスの車両更新で、今後運賃の収納方法を周知する必要がある。
- ・海野線西町地区の方は、名古屋高速バスへの乗り継ぎも要望を聞いている。
- ・ノンステップバス導入により車内が広くなるので、停車前の利用者の移動を注意しなければならない。
- ・便ノ山線のみんぜんバス停から郵便局を利用される方は、郵便局まで遠いのでバス停移動を検討してほしい。
- ・4月から曜日変更した海野線は、木曜日の病院休日で利用者が少ないと思ったが、変更後は木曜日の方が利用者は多い。
- ・いこかバスを船津地区の旧道にも走らせてほしい。

### 尾鷲長島線に対する意見

- ・尾鷲までの便は、回数を増やしてほしい。
- ・尾鷲長島線・島勝線・松阪行きの特急バスは、同じ時間帯を運行しているので、それぞれが少しずつ、一時間に1本バスが運行するように調整すると利用者増加につながると思う。
- ・尾鷲までバスで行くと帰り便まで待ち時間が2時間あるので、ダイヤを調整してほしい。
- ・利用者が少ないが今後無くなってしまっても困るので続けてほしい。
- ・利用したいが、運行回数が少ないので利用しにくい。
- ・相賀から馬瀬まで畑仕事に行くが、時間帯が悪く利用しにくい。

## 島勝線に対する意見

- ・須賀利線が、減少しているという話を聞いている。島勝線の幹線補助要綱にある乗車人数の関係もあるので、今後は利用促進策や改善策が必要。
- ・島勝線は、利用が少ない。
- ・朝7時台のバスは、8時6分に海山総合支所前に到着するため、診療所の診察開始は、9時からであるためダイヤの調整を行ってほしい。
- ・高速バスとの乗継がよくない。

## 名古屋南紀高速線に対する意見

- ・南紀特急（名古屋行）は、バス停が移動し駐車場が狭いため利用しにくい。夜間も暗いので安全面でも不安がある。
- ・名古屋高速バスの帰り便だけ、海山サークルK前のバス停に停まってほしい。
- ・名古屋行きは、運賃も安く海山営業所の駐車場を利用できるので便利が良い。
- ・名古屋行きのバス停が遠くなったが、役場や駅ではだめなのか。
- ・名古屋行き的高速バスのバス停は、不便な所にあるため、せめて駐車場を整備してほしい。
- ・紀伊長島的高速バスの停留所が、人家のないところで暗く、駐車場もない。駐車場と照明を明るくできないのか。
- ・運転手の都合（トイレ等）で止まることも仕方ないが、車内アナウンスで知らせてほしい。

## 河合線に対する意見

- ・利用者が少ないと聞いているが運行を止めないでほしいと聞いている。
- ・田山地区の人は、河合線を利用するのに国道にあるバス停まで出て来ないと利用できないため不便であると思う。田山の公民館の近くにバス停を作ってはどうか。
- ・河合線を利用しているがバス乗降口のステップが高いので低くしてほしい。
- ・下河内・江竜の人は、河合線の停留所まで遠いので利用することが難しい。
- ・一日3便の第1便が朝早いため、買い物・通院等に利用しにくい。第1便と昼の第2便の間にもう一便運行してほしい。

## タクシーに対する意見

- タクシー券を町から交付し、乗合タクシーを検討してほしい。
- いつでも利用できるタクシーの利用方法も検討してほしい。
- バス事業だけを町内全域に広げてしまうと、タクシー利用者がいなくなりタクシー会社が無くなってしまおうと思うのでタクシーを利用してもらえることも考えないといけない。
- 福祉タクシーは予約しないと来てくれない。
- タクシーを町が運営してはどうか。